

巡回相談員特集

子ども発達支援部

篠田 かおり 部長へのインタビュー



「子ども発達支援について」

子ども発達支援部では、高知県教育委員会の外部専門家を活用した支援体制充実事業、香南市のいきいき香南っ子相談会に協力し、幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校からの申し込みに応じて、巡回相談員の一員として士会員の派遣調整を行っています。

相談員は、半日から1日程度、園や学校に出向き、診断名の有無にかかわらず、生活面や対人面で配慮が必要な児に対する、「なぜできないのか?」「どう支援したらよいのか?」といった、先生方の悩みに対して支援しています。巡回相談の手順は、郵送される事前情報と2~3時間の観察から児を評価します。その後、児の特性に応じた具体的な支援策について担任の先生などを交えて協議します。

相談員の登録者は不足しており、例年約50件程度の申し込みがありますが、派遣できているのは6割程度と要請に十分こたえられていない状況です。高知県内の小児／発達障害作業療法は、携わる作業療法士数自体が少ない、経験の年数や症例数が少ない、といった状況です。そこで、小児／発達障害に関する評価・治療などの研修会を年に1・2回開催しています。また、新しく事業に参画していただく先生方のためのマニュアルや、情報収集、観察時の評価チェックリストの作成を行っております。

より多くの会員の皆様に小児／発達障害に関わり、また各事業の相談員として活躍の道を拓いていただきたいと思っております。共に学び、行政に参画し、作業療法士の専門性を発揮しましょう!

「巡回指導員の現状について」

作業療法士の巡回指導員への参画状況や現状と課題について、子ども発達支援部の篠田かおり部長に取材を行いました。高知県の現状や依頼内容、巡回指導の流れや実際の場面について、参画することで学べること、得られること、臨床で活かせることなどをお聞きしました。

士会の巡回指導の現状について

——巡回指導の依頼について教えてください。現在、(一社)高知県作業療法士会(以下、士会)の登録者は何名いますか?

篠田部長 高知県からの派遣依頼は、士会に窓口を設置しており、登録していただいている巡回指導員を園や学校へ派遣しております。令和元年に高知県から35件の依頼があり、内訳は幼保63%、小学校31%、中学校6%で、幼保からの依頼が多いです。

一時期は20名の登録者がいましたが、現在の登録者は9名となっています。職域は、小児・発達分野を実施している一般病院、精神科、放課後等デイサービスです。

高知県からの委託は学期毎であるために、すでに勤務が決まっており、派遣が難しい方もい

ます。そのために、依頼件数の約6割程度しか派遣できていない現状です。まだまだ巡回指導員を増やす必要があります。子ども発達支援部としては、今後の登録者数は少なくとも20名を目指しています。

実際の巡回指導の場面について

——実際の巡回指導場面の流れについて教えてください。

篠田部長

依頼のあった園や学校に行き、担任の先生の悩みの確認などの打ち合わせ(約15分)、実際の遊び場面の観察(約60分)、派遣した相談員間で協議(約30分)を行って、担任の先生と協議(約60分)を行います。

——巡回指導とはどのような職種の方が参加して行われていますか?また、どのような方が対象となりますか?

篠田部長

巡回指導は、高知県・香南市により異なりますが、作業療法士の他に言語聴覚士・臨床心理士・県または市の職員で伺います。先生方の困りごとは、集団生活場面での課題が多く、病院を受診したことがない児がほとんどです。そのために、遊びや集団生活場面などの観察を通して、主に先生に特性や対応策などの助言を行います。

集団生活といっても、参加ができない、片付けができない、流れについていけないなど困りごとは様々です。例えば、座って過ごせない、話が聞けない場合、注意力や姿勢不良、理解力など様々な要因について観察から考えられる事をお伝えし、能力を伸ばす遊びや集団活動の提示、情報量の整理、椅子の形状などの提案を行います。理解力が課題であれば、言語聴覚士と連携し、具体例の提示をするなど対応策は様々です。自閉症スペクトラム障害の児では、離れた場所や先生の膝の上で集団参加ができないかななど、個々の課題点に対して、どのような手段を用いれば、集団内で参加ができるようになるのか助言をします。先生方からは、行動特性に合わせた有効な支援を喜んでくださったり、今の支援が有効だと確認できた場合、安心してくれています。

参画することで会員が学べる・得れる、臨床に活かせることについて

——参画することで知識や経験など、どのようなことが臨床に活かせますか?

篠田部長

保育現場に伺うことで、実際に発達に関わっている会員の方は、他職種の観察の視点を学ぶことでき実際に臨床で行っている治療が保育の生活場面でどうのように反映されているのかを知ることができます。精神疾患に関わる方は、成人疾患の利用者が多いと思いますが、小さい時期での関わりや観察などをを行うことで臨床に生かせる部分があると思います。

会員へメッセージをお願いします。

篠田部長

一般病院で小児に携わっている方、精神科勤務の方、まずは研修会へ参加してみませんか?(^^)まずは巡回指導員とともに同行で参画した方もいらっしゃいます。まずは同行でもかまいませんので、一緒に勉強し、高知県の子ども発達支援を盛り上げていきましょう(^^)

取材をしての感想

子ども発達支援に関わらず、様々な研修を受ける中で、行政から作業療法士の地域参画はとても必要とされていると感じています。私自身も地域へ参画する機会があり、参画することで、自身のみならず、行政及び他職域スタッフとの連携も図れ、結果職場に与えるメリットも大きいと感じています。一人一人が求められていることに少しでも目を向け、他スタッフ・職場に働きかけることで、今後の作業療法士の職域拡大・確保及び今後作業療法士を目指している方に繋がっていけるのではないかと感じました。